



義援金を贈った吉住代表(左)

町民有志の団体「荒波突破」が 義援金贈る

ミニバレーボールなどの活動を前身とした任意団体「荒波突破」の吉住彰郎代表が3月18日に町役場を訪れ、日本赤十字社厚真分区長の宮坂町長に能登半島地震の義援金20万円を贈りました。

会員の高齢化などで、活動の継続が難しくなり昨年解散。活動資金などの残金を能登半島地震の被災地に役立てて欲しいと義援金を届けました。吉住代表は「連絡が取れない会員もいますが、会の総意として義援金を贈ることにしました」と話しました。

厚真産ハスカップブランド化推進協議会(山口善紀会長)が主催するハスカップフォーラムが3月22日、総合福祉センターで開かれました。

生産者を中心に約40人が受講し、明善株式会社の取締役でブランディングデザイナーの堀口研さんが講師となり、「喜んでくれる人の顔を想像して、厚真産ハスカップを地域ブランドに！」をテーマに講演しました。

堀口さんは「お客さんとの会話の中にヒントがあります。どのような場面でハスカップを食べているのか、購入する年齢層や性別、味など、消費者の価値観を知ることがブランド化につながります」と話しました。

ハスカップフォーラムを開催



ブランド化について講演する堀口さん

厚真町まちづくり委員会 委員長に寺坂文秀さん



第5次厚真町総合計画などについて意見を交換したまちづくり委員会

令和5年度第1回まちづくり委員会が3月22日に総合福祉センターで開かれ、任期満了に伴う委員13人に委嘱状を交付し、委員長に町商工会長の寺坂文秀さん、副委員長にとまこまい広域農業協同組合厚真地区担当理事の石橋公昭さんを選任。第5次厚真町総合計画等について意見を交換しました。

委員会は町長の諮問機関で、地域づくり計画などについて審議や提言を行い、教育委員会や農業委員会、公的団体の代表者、学識経験者などで構成しています。宮坂町長は「新たな総合計画の取り組みは多岐にわたります。一次産業の振興や人材育成など、他地域との差別化をめざすために協力をお願いします」とあいさつしました。

まちづくり委員は次の通り【委員長】寺坂文秀【副委員長】石橋公昭【委員】長門茂明▶高橋宥悦▶齊藤政則▶大橋正治▶澤口伸二▶大垣崇(新)▶上道和恵▶畑嶋宏謙(新)▶黒崎靖広▶柿崎幸恵(新)▶今廣佐和子(新)

株式会社丸博野沢組と厚真建設協会が清掃奉仕



河川敷と道路を清掃する参加者の皆さん

株式会社丸博野沢組（野澤政博代表取締役社長）と厚真建設協会は4月上旬、厚真川の河川敷や上厚真・厚真市街地で清掃奉仕を行いました。

株式会社丸博野沢組は4月1日、社員約20人が会社に近い厚真川の河川敷に繰り出し、ペットボトルなどのごみを拾いました。社員たちは口々に「年々、ごみは少なく感じます。きれいな環境を保ちたいですね」と話しました。

厚真建設協会の加盟社31人は4日、上厚真地区と厚真市街地で道路を清掃しました。路肩にたまった砂や枯れ葉などをほうきで掃き、散水車を使って道路を掃除しました。

厚真市街地で春の交通安全運動街頭啓発

厚真市街地の信号交差点で4月5日、春の全国交通安全運動の街頭啓発が行われ、町内の事業所などから約100人が参加しました。

運動の重点として、①子どもが安全に通行できる道路環境の確保と安全な横断方法の実践②歩行者優先意識の徹底と「思いやり・ゆずり合い」運転の励行③自転車・電動キックボード等利用時のヘルメット着用と交通ルールの遵守などが掲げられました。



交通安全を呼びかける参加者の皆さん

町交通安全推進委員会などが新入学児に記念品を贈呈

新入学児の交通安全を願って関係者が4月5日、小学校2校に記念品を届けました。

贈呈したのは、町交通安全推進委員会や町交通安全協会、厚真駐在所・上厚真駐在所、苫小牧地区交通安全協会、室蘭地区自動車協会で、ランドセルカバーや道具箱、あつまるくん反射バッチなどを贈りました。



記念品を受け取る上厚真小学校の清水京子校長

町は4月5日、本年度の地域活性化起業人5人に委嘱状を交付しました。

委嘱されたのは、京都スタイル(株)代表取締役の岡村充泰さん、日本郵政(株)の濱田真基子さん、(株)さとゆめの福井遼さん、(株)キッツの軍司美和さん、アンドパブリック(株)で社会的インパクト評価等の手法でさまざまな分野の課題解決を支援している桑原憂貴さん。

岡村さんは働き方改革の研修や起業家からの事業相談などに対応、濱田さんは郵便局窓口での行政事務の委託や新スマート物流の導入を検討、福井さんは町内施設の有効利用、軍司さんは町内でのカーボンニュートラル事業を推進します。また、新たに創設された副業型の桑原さんは新しい総合計画の策定や事業評価などをサポートします。

地域活性化起業人5人に委嘱状を交付



委嘱状を手にした地域活性化起業人の皆さん

郷里に思いを馳せ東京厚真会が今年の活動を開始

厚真町の出身者で組織する東京厚真会（佐藤誠会長）が3月28日、東京都内で今年初の「歴史探訪会」を開き、見聞や懇親を深め、郷里・厚真への思い出話を募らせました。

平均年齢は80歳を超える東京厚真会ですが、総会や探訪会などの活動を続けています。35回目の今回は、8人が参加しました。東和地区出身の今多勝実さんは「会員が集まると、厚真の思い出で盛り上がります。郷里を応援している人ばかりです。町民の皆さんに、私たちのことを知ってもらいたい」と話し、上厚真地区出身の佐藤会長は「町の発展を願っています。可能であれば、あつま田舎まつりにも参加したい」と語りました。

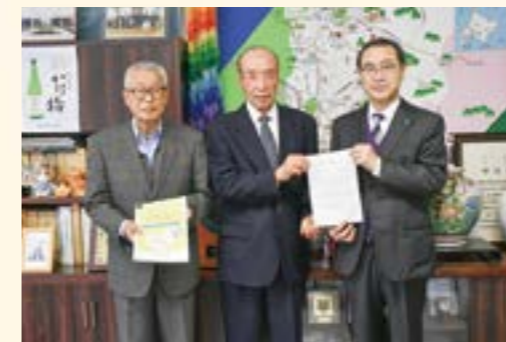


国の重要文化財に指定されている築地本願寺で集合写真に納まる東京厚真会の皆さん

厚真町介護保険運営協議会が町長に答申書を提出

厚真町介護保険運営協議会の佐藤秋夫会長が3月29日、「厚真町高齢者保健福祉計画・厚真町介護保険事業計画A-9プラン(案)」について、意見書を添えて宮坂町長に答申書を手渡しました。

答申書には、①町や介護の仕事の魅力積極的に情報発信し、介護事業所で働きたいと思えるような取り組みの推進②地域包括支援センター等との連携による仕組み作りと認知症対策の推進を付記しました。



答申書を提出した佐藤会長

町は4月1日、新任の地域おこし協力隊7人に委嘱状を交付しました。

着任したのは、農業支援員の佐々木賢一さん、島倉權さん、畑山貴英さん、起業型の上村陽介さんとペロン珠穂さん、協働型の神垣明菜さんと藤田千愛さん。

農業支援員の佐々木さん、島倉さん、畑山さんはほうれん草やハスカップなどで新規就農を目指しています。また、起業型の上村さんは溪流を中心にした釣りの観光事業化、ペロンさんはパン職人の夫と共に北海道の食材を使ったバゲットなどのパン店を開業する予定です。さらに協働型の神垣さんは生産した野菜などを使った農産加工品の製造・販売、藤田さんはローソン上厚真店の共同店長として地域密着型の店舗づくりを目指しています。宮坂町長は「皆さんが備えているさまざまなポテンシャルに期待しています。夢を実現してください」と激励しました。

地域おこし協力隊の7人に委嘱状を交付



委嘱状を手に活躍を誓う地域おこし協力隊の皆さん

